

女子の身体的理想像に関する研究 (その 4)

— 姿勢と美しさとの関係について —

和 泉 貞 男

I. 研究目的

女子の身体的理想像を求めるに当って、もっとも重要な要素の一つであると思われる「美しさ」をとりあげ、身体の大きさや形の面から出来るだけこまかく分析し、数量化することによって科学的な評価を下し、わが国青少年女子の理想像を求めるための資料を得ようとするものである。

II. 研究方法

「美しさ」の分析をするに当って、出来るだけ教育的な立場から研究を進める方針をとった。このため先天的な要素に左右されると思われる長育の面をさけ、後天的な要素に左右されることが考えられる幅育や姿勢に眼を向けることとした。

この研究に関連した今までの研究経過を略述すれば次の通りである。

第1報¹⁾では「全身並びに下腿の幅育と美しさとの関係」

第2報²⁾では「上肢および下肢の幅育と美しさとの関係」

第3報³⁾では「胴体のくびれかたと美しさとの関係」

について報告したが、今回は「姿勢と美しさとの関係」について報告することとした。

研究の方法はおおむね前回に準じたが、その概要を示すと次のようであった。

【1】 アンケート用紙の作成

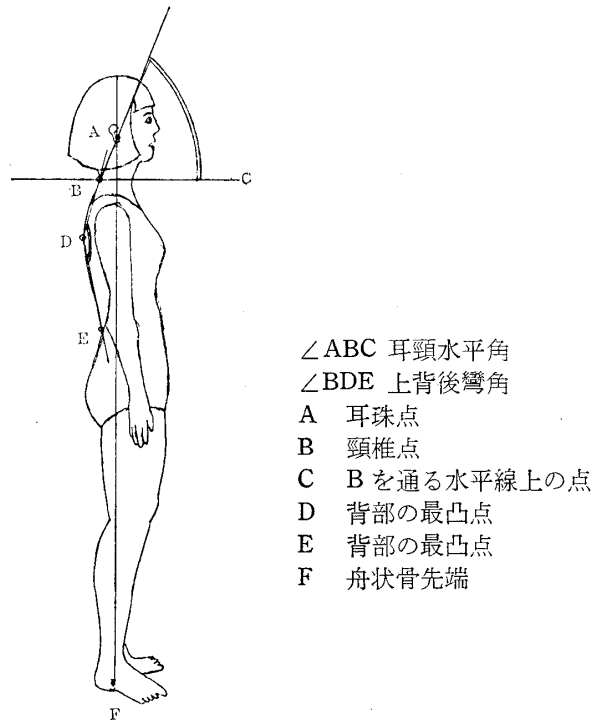
姿勢の美しさの評価をするに当って、出来るだけ客観的な評価をするために、筆者自身の評価や少数の観察者による評価ではなく、出来るだけ多数の観察者に評価を求め、その結果を集計し検討するという方法をとった。したがって、評価の対象は人物そのものではなく、アンケート用紙に書き込んだモデルによることとした。このアンケート用紙の作成方法を示すと次のようになる。

① 東京女子体育大学の学生を被験者として水着姿の写真を取り、この中の20枚(身長160cm前後で、姿勢計測の可能な写真)について、つぎのような手法で耳頸水平角および上背後彎角を計測した⁴⁾。

耳頸水平角……頭頂と舟状骨先端を結ぶ直線に対して頸椎点を通る垂線をひき、これと

- 1) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その1). 東京女子体育大学紀要第2号 1967.
- 2) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その2). 東京女子体育大学紀要第3号 1968.
- 3) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その4). 東京女子体育大学紀要第4号 1969.
- 4) 耳頸水平角および上背後彎角の名称は、伊沢やゑ子等による「姿勢についての研究」(第一報)——コンホメーターによる女子体育専攻学生の脊椎彎曲角を中心として——東京女子体育大学紀要第1号によったが、本研究はコンホメーターによらず、肉眼で観察し得た耳頸水平角、上背後彎角を用いた。

頸椎点と耳珠点とを結ぶ直線とのなす角
 上背後彎角……側面から肉眼でみえる背部の最凸点と最凹点とを結ぶ直線と、最凸点と
 頸椎点とを結ぶ直線とのなす角
 これを図示すると第1図のようになる。



- ∠ABC 耳頸水平角
 ∠BDE 上背後彎角
 A 耳珠点
 B 頸椎点
 C Bを通る水平線上の点
 D 背部の最凸点
 E 背部の最凹点
 F 舟状骨先端

第1図 耳頸水平角および上背後彎角

② 前述の20名の耳頸水平角および上背後彎角の平均値はそれぞれ約 60° と約 156° であり、また標準偏差はそれぞれ約 6° と約 5° であった。

この平均値を基準として基本モデルを作り、上下左右に $1/2\sigma$ づつ、すなわち耳頸水平角で 3° 、上背後彎角で 2.5° づつの間隔で角度を増減し、モデルの数を増して合計16個のモデルを作った。第2図のアンケートはこれを示しているが、左右は耳頸水平角の差を、上下は上背後彎角の差を現わすようにした。

[2] 観 察 者

観察者の性別、年齢別、職業別人員は第1表の通りであった。

[3] 評価の方法

















前記のアンケートから美しさの順位をきめるまでの手順は前回の報告とほぼ同様であるが、略述すると次のようであった。

① 各観察者にそれぞれのモデルについて「たて」、「よこ」別に1位から4位までの順位をつけてもらった。

② 1位を4点、2位を3点、3位を2点、4位を1点と換算し、「たて」、「よこ」の点数を合計したものを、各モデル毎に観察者の性別、年齢別(10代、20代、30代)にまとめて集計し、順位をつけた。

下記の図は、女子の姿勢の美しさに関する調査です。16 個のモデルについてそれぞれに、たて、よこの別に美しいと思われる順に順位をつけて下さい。
(たて、よこ共 1 位～4 位)

あなたの性別 男、女 () 才 職業 ()

A ₁	A ₂	A ₃	A ₄
			
たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位
B ₁	B ₂	B ₃	B ₄
			
たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位
C ₁	C ₂	C ₃	C ₄
			
たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位
D ₁	D ₂	D ₃	D ₄
			
たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位	たてで () 位 よこで () 位

第 2 図 女子の身体に関する調査

第1表 観察者の性別、年齢別、職業別人員

年齢	職業	男							女						
		教員	学生	社会	その他	無職	不明	合計	教員	学生	会社	その他	無職	不明	合計
10代	15		8				1	9		8		1		1	10
	16		15				2	17		16					16
	17		15		2		2	19		14		2	1	1	18
	18		31	1	3		3	38		17	2	8		2	29
	19		27	8	2	3	1	41		18	2	10	2	1	33
	計		96	9	7	3	9	124		73	4	21	3	5	106
20代	20		25	3	4	2		34	2	22	3	8	2	1	38
	21		26	2	2			30	9	11	2	7	2	1	32
	22	2	12	3	8	1		26	4	5	9	8	4		30
	23	2		4	2			8		1	2	5	1	1	10
	24	2		3	1			6	3	1	6	3			13
	25	2		5	7			14	6	1	1	3		2	13
	26			2	5			7	1		1	3	2	1	8
	27	1		5	4			10	1		2	2	2		7
	28	3		3	5			11	1			1	3		5
	29	2		5	2			9				2	3		5
計	14	63	35	40	3		155	27	41	26	42	19	6	161	
30代	30	2		7	5		1	15	1			2	3	1	7
	31	1		4	1			6			3	9	6		18
	32	3		4	9			16				3	5	2	10
	33	2		2	5			9			1	3	3		7
	34	4		1	5			10			1	5	5	3	14
	35	1		8	4		1	14	2			4	5	1	12
	36	3		4	1			8			1	2	3	1	7
	37			2	5			7	1			4	5		10
	38	2		5	5			12	2		1	1	4	1	9
	39	1		3	5			9	1			5	6		12
40	1		3	2		1	7	1			4	3	1	9	
計	20		43	47		3	113	8		7	42	48	10	115	
合計	34	159	87	94	6	12	392	35	114	37	105	75	21	382	

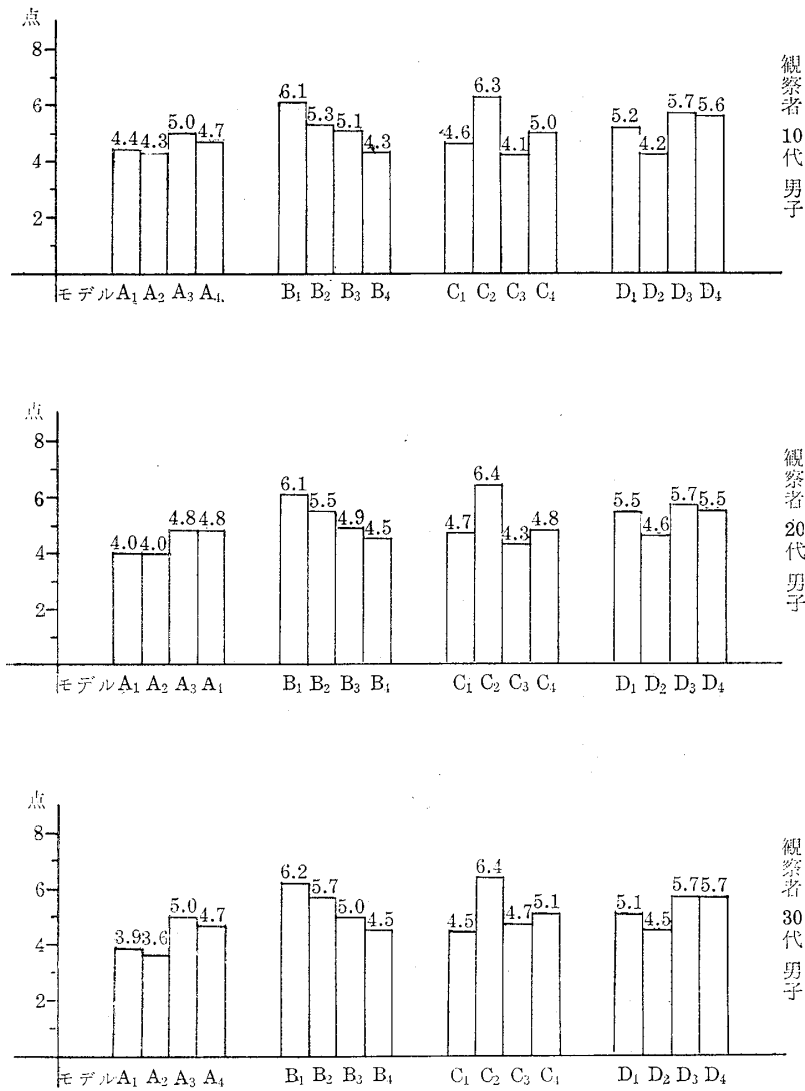
III. 研究結果

前述のアンケートによる観察者の評価を、6個の群(10代男、10代女、20代男、20代女、30代男、30代女)に層別して集計し、検討したところ次のような結果となった。

[1] 観察者の性別、年齢別にみた美しさの評価について

① 姿勢の美しさの平均値について

A₁ から D₄ までの16個のモデルについて、各観察者によって与えられた評価を、観察者の性別、年齢別に集計し、それぞれの平均値をしらべたところ、第3図のようになっ



第 3-1 図 観察者の性別、年齢別にみた 16 個のモデルの平均値

た。前述のごとく、「たて」で 4 点、「よこ」で 4 点計 8 点が満点であるが、モデル C₂ は観察者の 6 群とも 6 点以上であるのに対し、A₂ は 3.53 点~4.32 点しか得られなかった。

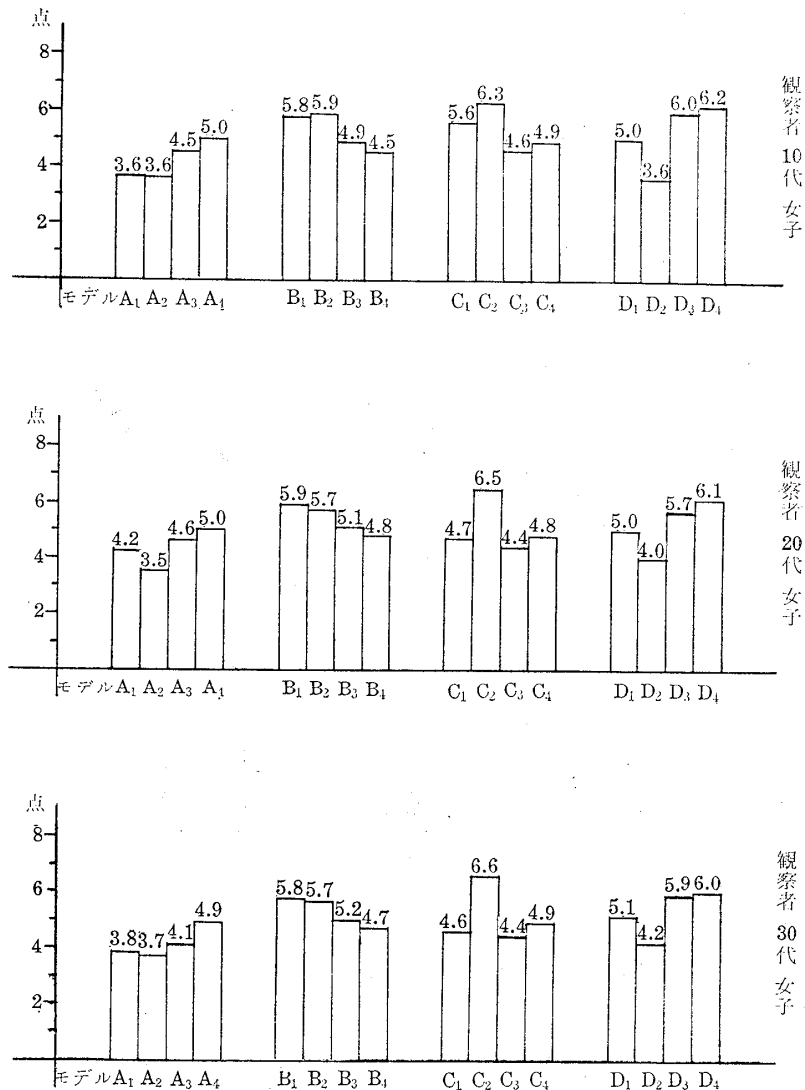
② 美しさの順位について

前述の平均値をもとにして、各モデルの美しさの順位をしらべたところ第 4 図のようになった。

これで見ると、観察者の 6 群すべてがモデル C₂ を第 1 位とした。このモデルは、耳頸水平角が 60°、上背後彎角が 158.5° のモデルであった。

第 2 位は、男子の観察者は 3 群を通じて B₁ であり、女子の観察者は 3 群を通じて D₄ であった。

しかし、最下位の 16 位は、観察者の性、年齢でまちまちであり、男子の観察者では 10 代が C₃、20 代が A₁、30 代が A₂ を最下位としており、女子の観察者では 10 代が A₁、20 代と 30 代が A₂ を最下位としていた。



第 3-2 図 観察者の性別、年齢別にみた 16 個のモデルの平均値

このように、16 個のモデルについての美しさの評価は観察者の性や年齢で若干の差がみられることがわかった。しかしこの点についての統計学的な検討が必要と考えられるので後記のような方法で研究を進めた。

[2] 観察者の性や年齢と姿勢の美しさの評価との関連についての χ^2 テスト

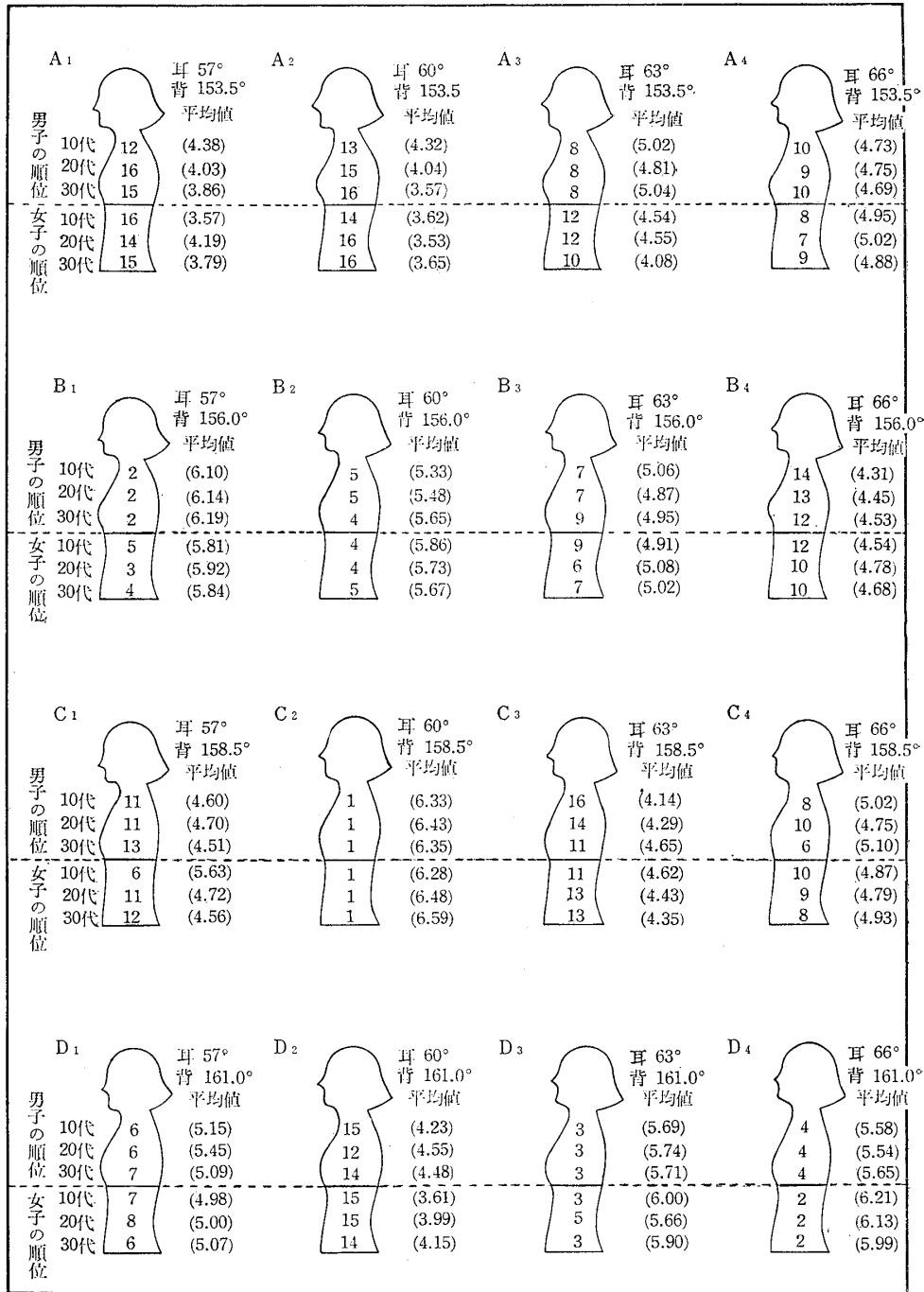
① 観察者の性と美しさの評価との χ^2 テスト

観察者の性と姿勢の美しさの評価との間に統計的にみて関連があるかどうかについてしらべたところ、第 2 表のような結果を得た。

すなわち、観察者 10 代の男女の間では、モデル A₁、B₄、D₂、D₄ に関する評価において 1% 水準で、モデル A₂、A₃、A₄、C₃ に関する評価において 5% 水準で χ^2 の値が有意となり、また観察者 20 代の男女の間では、モデル A₂、D₂ が 1% 水準で、モデル D₁ が 5% 水準で χ^2 の値が有意となった。

このように、同じ年代の観察者においても性の違いによって姿勢の美しさの評価に差がみられる場合があるということがわかった。

	N	M	σ
耳頸水平角			
耳頸水平角	20	60.2	6.3
上背後彎角	20	156.3	5.1



第4図 観察者の性別、年齢別評価と順位

たとえば、モデル A₁ についていえば、このモデルは 16 個のモデルの中では「前かがみ」のモデルであって、順位も下位に属するモデルであるが、男子の 10 代の観察者が 12 位に評価し、その平均値が 4.38 点であるのに対して、女子の 10 代の観察者が 16 位に評価し、平均値が 3.57 点であった。この結果からいえば、男子の 10 代の観察者は女子

第2表 観察者の性および年令と美しさの採点との χ^2 テスト

観察者 モデル	性 別			年 令 別	
	10代男女	20代男女	30代男女	男 [10代, 20代, 30代]	女 [10代, 20代, 30代]
A ₁	19.927**	4.739	1.148	15.170*	10.250
A ₂	11.034*	11.874**	0.430	15.513*	2.633
A ₃	10.075*	2.438	4.991	6.309	6.269
A ₄	9.490*	2.657	6.102	5.312	3.351
B ₁	4.931	1.836	6.825	6.695	8.506
B ₂	6.271	3.130	0.659	5.239	6.560
B ₃	1.552	2.655	1.680	2.702	4.757
B ₄	12.101**	4.916	2.207	9.966	1.862
C ₁	29.843**	2.580	3.542	3.517	29.470**
C ₂	2.952	0.621	2.258	1.705	5.108
C ₃	11.153*	1.315	3.081	11.807	4.882
C ₄	5.603	4.522	2.924	7.053	1.451
D ₁	3.318	11.202*	0.184	7.917	1.267
D ₂	18.251**	14.138**	3.314	11.442	11.769
D ₃	3.282	1.866	3.431	3.600	4.820
D ₄	12.925**	12.386**	3.561	10.544	2.087

* 5%水準で有意 ** 1%水準で有意

の10代の観察者に較べて、「前かがみ」の姿勢に対して寛大であるとみてよいであろう。

② 観察者の年令と美しさの評価との χ^2 テスト

観察者の年令と姿勢の美しさの評価との間に関連があるかどうかをしらべたところ、次のようになった。

観察者男子の年令間においては、モデル A₁, A₂ に関する評価において5%水準で、また観察者女子の年令間においては、モデル C₁ の評価において1%水準で χ^2 の値が有意となった。

この結果から考えると、観察者の年令の違いによる姿勢の美しさの評価の差は、性の違いによる評価の差ほどではないが、いくらかの差が存在するということが推察された。

たとえば、モデル A₁ は前述のごとく「前かがみ」の姿勢のモデルであるが、観察者の年令の低い方が年令の高い方に較べて、比較的点があまいということがわかった。

IV. 総 括

女子の身体の美しさのうち、姿勢の美しさについて、アンケートによる評価を行ったところ、次のような結果を得た。

① 16個のモデルの中、観察者全体を通じて最も良い評価を得たのは C₂ であった。このモデルの姿勢は耳頸水平角が 60°, 上背後彎角が 158.5° であった。

② 観察者の性別、年令別によってそれぞれの評価を比較してみると、「前かがみ」のタイプに対しては、女子の観察者より男子の観察者の評価が比較的点が良く、また年令の

高い観察者より年齢の低い観察者の評価が比較的点が良いという結果を得た。

本研究の一部は、日本体育学会第 20 回大会で発表した。

謝 辞

本研究は、本学教授松田義之氏、本学助手川口道子氏をはじめ、橋本恵子、吉本寛美、吉本美恵の諸姉の協力を得てなされたものであり、ここに深く感謝の意を表します。